

京都大学  
生物資源経済研究

---

No.8

2002年12月

---

AN ECONOMIC ANALYSIS OF AGRICULTURAL SUSTAINABILITY IN  
A MOUNTAINOUS VILLAGE OF WEST JAVA :

Use of the Multinomial Logit Model to Soil Fertility Perception

..... Hiroshi TSUJII ( 1)

中国における土壌浸食の現状と原因

—西北及び長江中上流地域を中心に— ..... 沈 金虎 ( 21)

オーストラリアの自由貿易協定への取り組みと国際市場への影響

—豪米自由貿易協定の潜在的波及効果を中心として— ..... 加賀爪 優 ( 47)

木材輸出国カナダにおける持続可能な森林管理への取り組み：

産業政策か環境政策か？ ..... 大田伊久雄 ( 79)

フードチェーンにおけるトレーサビリティ;EUの現状と日本の課題 ..... 新山 陽子 (105)

STUDY ON FINANCE SUPPLY IN BULGARIAN FARMS

..... Hrabrin BACHEV & Masaru KAGATSUME (131)

戦後東ドイツの旧農民村落における難民問題

—メクレンブルク・フォアポンメルン州を中心に— ..... 足立 芳宏 (151)

地域営農の現状と将来方向 —篠山地区を対象に— ..... 武部 隆 (185)

地域内農家戸数の中長期予測のためのモデル開発 ..... 小田 滋晃 (199)

---

## 『生物資源経済研究』規定

### 1. 編集要領

#### (1) 執筆者

生物資源経済学専攻教官、および編集委員会で特に認めたものとする。なお、別途定める『生物資源経済研究』内規に基づき、本専攻の院生（およびこれと同等以上と認められる者）も、専攻会議の了承のもとに執筆できる。

#### (2) 発行回数と別刷り

当年度1回の発行とする。別刷りは各原稿当たり20部まで無料で著者に贈呈、それ以上は著者の実費負担とする。

#### (3) 原稿の採否の決定

原稿の採否の決定は編集委員会が行う。

#### (4) 著者校正

著者校正は原則として2回行う。誤植以外の加筆・修正はできないこととする。

### 2. 執筆要領

#### (1) 原稿の種類は論文と研究ノートの2種とし、著者は原稿にそれがどの種類に属するかを明記する。

#### (2) 原稿の長さは図表を含め、和文の場合は横書き400字詰めA4原稿用紙で、50枚以内とする。

英文の場合図表を含め、A4用紙にダブル・スペース（28行、1行10～15単語）で、30枚以内とする。和文の場合英文サマリー（300単語以内）と英文題名を、英文の場合和文サマリー（800字以内）と和文題名を投稿と同時に提出する。原稿はコピーを2部作成し合計3部、編集委員長ないし副委員長に完成原稿で提出する。

#### (3) ワードプロで執筆の場合は、A4版用紙に40×40字で横書き印刷した原稿とテキスト・ファイル形式でセーブした3.5インチ・フロッピー（著者名、論文テーマ、ファイル名、使用アプリケーション・ソフト名、使用パソコン・ワードプロ機名を表記したもの）1枚を提出する。

#### (4) 特殊な専門用語・学術用語の他は原則として新仮名遣い・常用漢字を使用する。

#### (5) 節項表示は

1. (1)、1)、aのようにする。

#### (6) 単位は%、kg、haなどの略号を用い、数字は5億6,728万などと表す。

#### (7) 図表

1) 加工：分かりやすいように加工し、刷り上がりを考慮して縮約に努める。

2) 用紙：図は上質白紙を使用し、トレースするかレーザー・プリンターで印刷したものを提出する。

3) 図表題：各論文ごとに各図表の上に、第1表、第2表、…第1図、第2図…のように番号を順番に付け、図表題を簡潔に付ける。各図表の下に出典ないし参考文献と、必要なら注を付ける。

4) 位置表示：編集作業をスムーズにするため原稿の右マージンに図表の入る位置を示す。

#### (8) 注

本文内の関係箇所に片括弧で1)、2)、…と肩書きする。なお、原稿の右マージンに注の位置を示す。全部の注を各論文の末尾にまとめて記述する。

#### (9) 引用文献

引用文献を別記する場合は和文と欧文別にまとめ、和文は著者姓のアイウエオ順、欧文は著者姓のアルファベット順に下記例に従って、( )内に文献番号を順に付けて、注の後に表記する。また、本文中の引用方法は次の例のようにする。例：著者姓（文献番号）

#### 引用文献

(1) 並木正吉「農業保護の理由」『農業と経済』第51巻第11号、25-35頁、1985年10月。

(2) 堀田忠夫「米の消費・流通と寡占競争市場」（亀谷編著『アメリカ米産業の素顔』富民協会、1988年刊収）。

(3) 増井幸夫『農村労働市場の計量分析』、大明堂、1995年2月。

(4) 南 亮進著『日本の経済発展』、東洋経済新報社、1981年12月。

(5) Bank of Thailand, *Quarterly Bulletin*, Vol.24 No.1, March 1984.

(6) Farrell, J., J. C. Ingram and J. M. Keynes, "Information and the Coase Theorem," *Economic Perspective*, Vol.1, No.2, 25-35pp., Fall 1987.

(7) Geertz, Clifford, *Agricultural Involvement*, Berkeley: University of California Press, 1966.

(8) U. S. D. A., E. R. S., *Rice, Situation and Outlook Report*, RS-53, September 1989.

### 付 記

(1) 本規定の改正は専攻会議の承認を得なければならない。

(2) 本規定は平成7年9月14日より実施する。

(3) 本改正は平成13年7月31日より実施する。

## 執筆者・分野紹介（五十音順）

足立 芳宏	比較農史学
大田伊久雄	森林・林業政策学
小田 滋晃	経営情報会計学
加賀爪 優	地域環境経済学
武部 隆	食料・環境政策学
沈 金虎	地域環境経済学
辻井 博	国際農村発展論
新山 陽子	農業組織経営学

### 『生物資源経済研究』第8号の編集を終えて

当専攻の重要な研究成果である『生物資源経済研究』第8号が本年も無事出版できました。専攻構成員の日頃の研究に対する研鑽と編集へのご協力の賜物だと思っております。

本年度は、昨年度第7号から実施している編集業務外部委託の問題点を改善し、この方向を定着させるべく努力してまいりました。その結果、外部委託先である京都大学生協企画部には『生物資源経済研究』編集業務に習熟いただき、スムーズに発行できる体制が整ってまいりました。

本号では、研究対象がますます多様な国にわたり、専攻構成員の研究活動のますますの広がりを感じさせます。

『生物資源経済研究』のいっそうの充実を図るべく、次回第9号への専攻構成員の皆さまの投稿のご協力を強く期待いたします。

平成14年12月25日  
編集委員長 新山 陽子

### 『生物資源経済研究』第7号編集委員（五十音順）

浅見 淳之	足立 芳宏	大石 和男	大田伊久雄
小田 滋晃（副委員長）	武部 隆	沈 金虎	新山 陽子（委員長）

## 京都大学 生物資源経済研究 第8号

2002年12月25日 印刷

2002年12月25日 発行

編集 京都大学大学院農学研究科生物資源経済学専攻  
『生物資源経済研究』編集委員会

電話 075-753-6201

発行 京都大学大学院農学研究科生物資源経済学専攻  
〒606-8502 京都市左京区北白川追分町

印刷 京都大学生生活協同組合

平成 年 月 日

御中

京都大学大学院農学研究科  
生物資源経済学専攻

刊行物資料の送付について

このたび下記の『生物資源経済研究』を専攻紀要として刊行いたしました。御高覧いただきたく御送付申し上げます。

お手数ながら下添の受領書を御送付下さるようお願い申し上げます。

なお、今後新資料御刊行の節は御恵贈賜りたくお願い申し上げます。

記

生物資源経済研究 第8号

1部

6068502

京都市左京区北白川追分町

京都大学大学院農学研究科  
生物資源経済学専攻司書室 行



# The Natural Resource Economics Review

## Kyoto University

No.8

December 2002

- 
- AN ECONOMIC ANALYSIS OF AGRICULTURAL SUSTAINABILITY IN  
A MOUNTAINOUS VILLAGE OF WEST JAVA :  
Use of the Multinomial Logit Model to Soil Fertility Perception  
..... Hiroshi TSUJII ( 1)
- The Soil Erosion in China : A Case Study of Northwest China  
and Mid & Upper Drainage Area of Yangtze River  
..... Jinhu SHEN ( 21)
- Australian Attitude on the Free Trade Agreement and the International Impacts  
— With Special Reference to Effects of the Australia-USA FTA —  
..... Masaru KAGATSUME ( 47)
- Policy initiatives for sustainable forest management in Canada :  
Is that industry oriented or environment oriented?  
..... Ikuo OTA ( 79)
- Traceability Systems in Food Chain;  
the Present Status in EU and the Subjects of Introduction in Japan  
..... Yoko NIYAMA (105)
- STUDY ON FINANCE SUPPLY IN BULGARIAN FARMS  
..... Hrabrin BACHEV & Masaru KAGATSUME (131)
- The Problem of Refugees in Old-Farmer-Villages of  
the Post-War East Germany. Mecklenburg-Vorpommern 1945-1952  
..... Yoshihiro ADACHI (151)
- Present Conditions of Regional Farming in Sasayama District and Its Future  
..... Takashi TAKEBE (185)
- “Model Development for Mid- and Long-term Forecast of  
the Number of Farm Households in a Region”  
..... Shigeaki ODA (199)
- 

Natural Resource Economics Division  
Graduate School of Agriculture  
Kyoto University